

2024年度  
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 (MDASH)  
【リテラシーレベル】

自己点検・評価報告書

2025年5月  
上智大学基盤教育センター・データサイエンス領域会議

1. 自己点検・評価の実施体制及び結果
2. 科目概要及び履修実績
3. 授業アンケート分析結果(春学期・秋学期)

※データサイエンスプログラム全体の履修状況は「2024年度データサイエンスプログラム(スタンダードコース)自己点検・評価報告書」をご参照ください。

## 1. 自己点検・評価の実施体制及び結果



## 自己点検・評価:実施体制

- 2021年に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の認定を受け、2022年度より全学必修科目として開講している「データサイエンス概論」の2024年度の状況について、下記メンバーによる自己点検・評価を実施した。
- 上智大学 基盤教育センター・データサイエンス領域会議
  - 領域長: 倉田 正充 (経済学部経済学科 准教授)
  - 委員: 大原 佳子 (応用データサイエンス学位プログラム 教授)  
鎌田 浩史 (IR推進室 チームリーダー)  
長谷部 拓也 (国際教養学部国際教養学科 准教授)  
山下 遥 (理工学部情報理工学科 准教授)

## 自己点検・評価:結果

点検項目	評価結果
1. プログラムの履修・修得状況	2024年度の履修者に占める修了者の割合は、前年度と同じく94%(修了者数2,701名)と高い割合を示していることから、本項目は適切であると判断できる。
2. 学修成果	成績評価の割合はA評価が29%、B評価が45%と高いため、本項目は適切であると判断できる。 ただしF評価(不合格)の割合は前年度と同じく6%であり、なかでも再履修者の高い不合格率が課題として挙げられる。
3. 学生アンケートを通じた学生の内容の理解度	授業アンケートの結果、「説明がわかりやすかった」「多様な考え方が身についた」等の理解度に関する項目は、5段階評価の平均値が概ね4を上回っており、本項目は適切であると判断できる。
4. 学生アンケートを通じた後輩等他の学生への推奨度	授業アンケートの結果、最終回における授業推奨度(NPS:ネットプロモータースコア)は学部によって14~57とバラつきがあるものの、いずれも比較的高い水準にあることから、本項目は適切であると判断できる。総合グローバル学部のみ、最終のNPSが30を大幅に下回っており、この要因の分析と対策を検討する必要がある。
5. 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	1年次の全学必修科目であり、また不合格者についても2年次以降に再履修できるカリキュラムが整備されていることから、本項目は適切であると判断できる。再履修者の高い不合格率の対策については引き続き検討すべきである。

## 2. 科目概要及び履修実績



# 授業の概要

到達目標	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 社会においてどのようにデータ・AIが利活用されているかについて理解する。</li><li>2. データの読み解きや説明の仕方などのデータリテラシーについて理解する。</li><li>3. データ・AIの利活用における法と倫理の問題など留意事項について理解する。</li><li>4. 実データを用いた演習を通して、実課題に対する分析方法や分析結果の共有プロセスについて理解する。</li></ol>
#1	イントロダクション
#2	事例① 日常生活とデータサイエンス
#3	事例② ビジネスとデータサイエンス
#4	事例③ 公共政策とデータサイエンス
#5	手法① 特徴を理解する
#6	手法② 違いを確かめる
#7	手法③ 新たな発見をする
#8	手法④ 将来を予測する
#9	演習① データの操作
#10	演習② データの可視化
#11	演習③ データの利活用
#12	態度① データのセキュリティ
#13	態度② データの法と倫理
#14	まとめ・最終レポート相互評価
期末課題	政府統計（教育用標準データセット）を用いた分析レポート

## 2024年度「データサイエンス概論」履修実績

学部	収容定員	年度								累計履修者数	履修率 収容定員に対する 履修者割合
		2024 修了者数	2024 履修者数	2023 修了者数	2023 履修者数	2022 修了者数	2022 履修者数	2021 履修者数	2020 履修者数		
神学部	186	45	51	43	51	39	41	6	0	149	80.1%
文学部	2040	467	522	458	521	471	509	135	5	1692	82.9%
総合人間科学部	1220	294	308	294	309	286	294	163	0	1074	88.0%
法学部	1320	309	333	322	341	333	340	155	5	1174	88.9%
経済学部	1320	316	331	317	336	313	321	259	2	1249	94.6%
外国語学部	2000	479	508	479	509	486	504	198	1	1720	86.0%
総合グローバル学部	880	212	223	216	230	200	212	73	1	739	84.0%
国際教養学部	744	180	189	165	171	112	112	2	0	474	63.7%
理工学部	1550	399	409	405	411	373	381	420	11	1632	105.3%
合計	11260	2701	2874	2699	2879	2613	2714	1411	25	9903	87.9%

- 2022年度から必修科目として開講。
- 国際教養学部は22年度秋学期から必修科目を開講したため、履修サイクルの関係上、履修率が少なく出ている。

## 2024年度「データサイエンス概論」成績分布

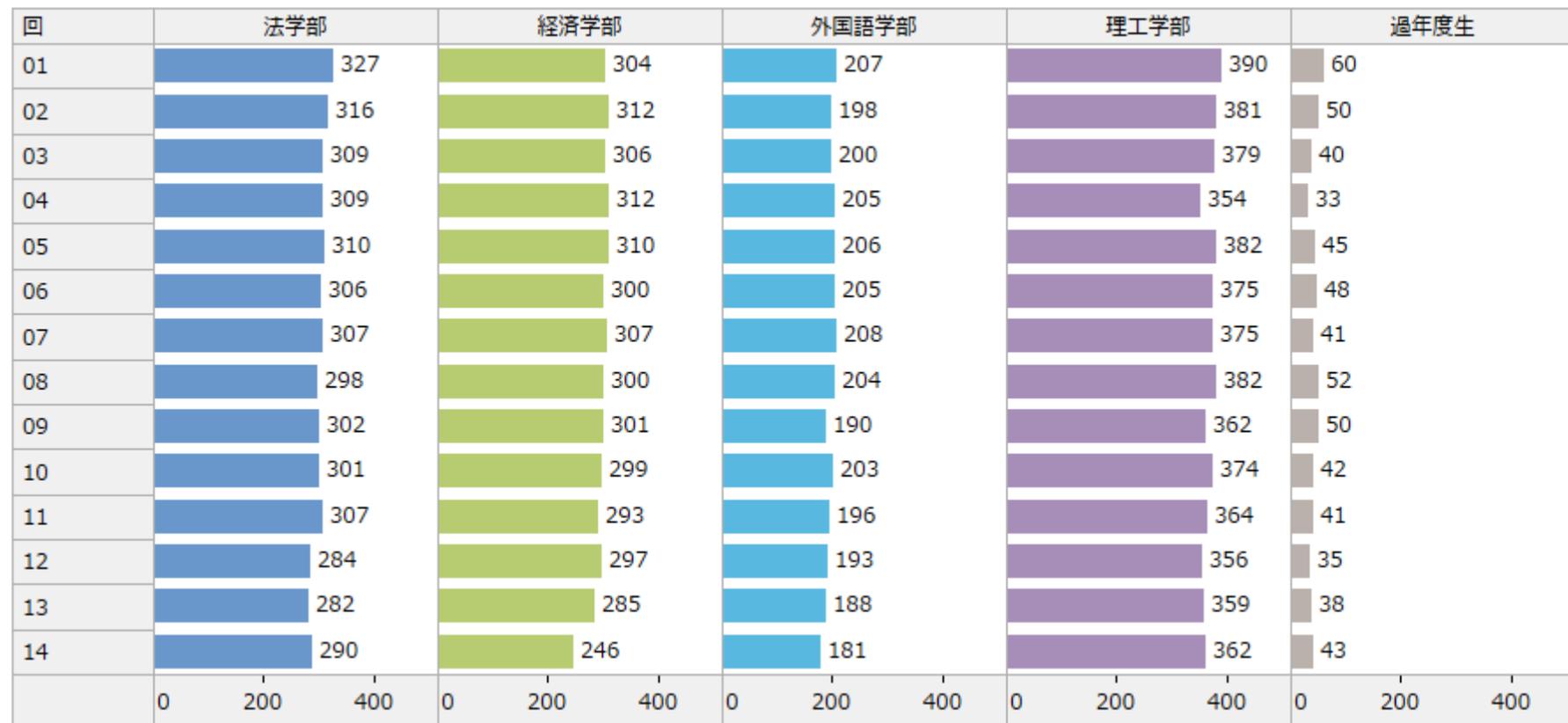
成績	人数	割合(%)
A (100～90点)	820	28.5%
B (89～80点)	1302	45.3%
C (79～70点)	408	14.2%
D (69～60点)	171	5.9%
F(59点以下:不合格)	173	6.0%
合計	2874	100.0

- 28%強の学生がA評価(100～90点)の好成績を修めている。
- B評価も含めると、全体の約74%が80点以上の成績で単位修得できており、学修成果は概ね高いレベルにあると言える。
- 6%の不合格者(F評価)は次年度に再履修する。

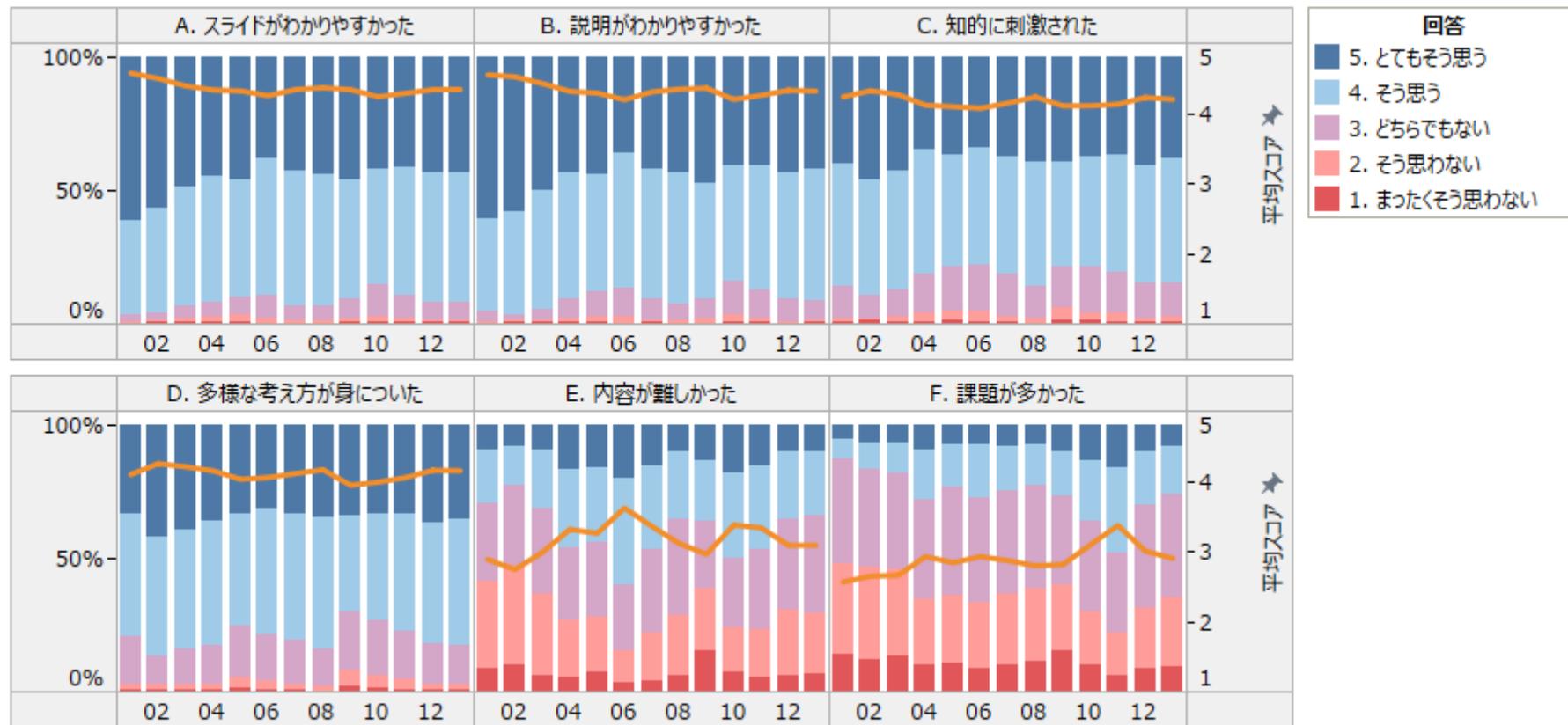
3. 授業アンケート集計結果  
春学期



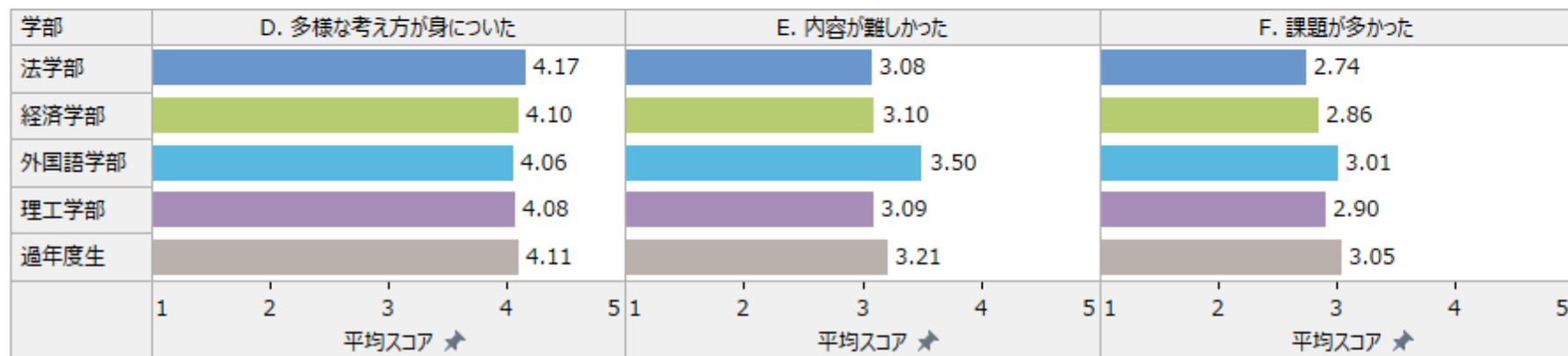
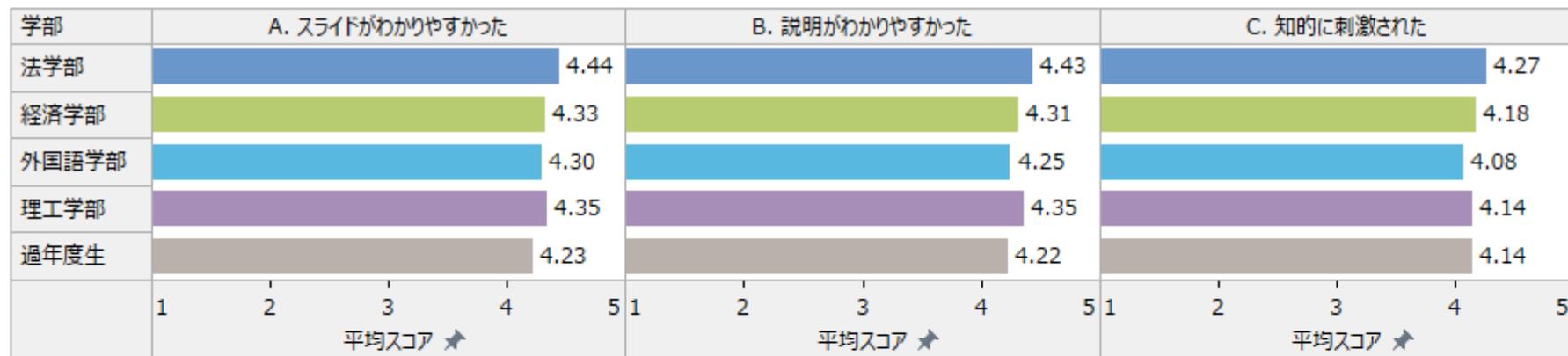
## アンケート回答者数



概ね高評価。第6回で「内容が難しかった」が、第11回で「課題が多かった」が若干多い。

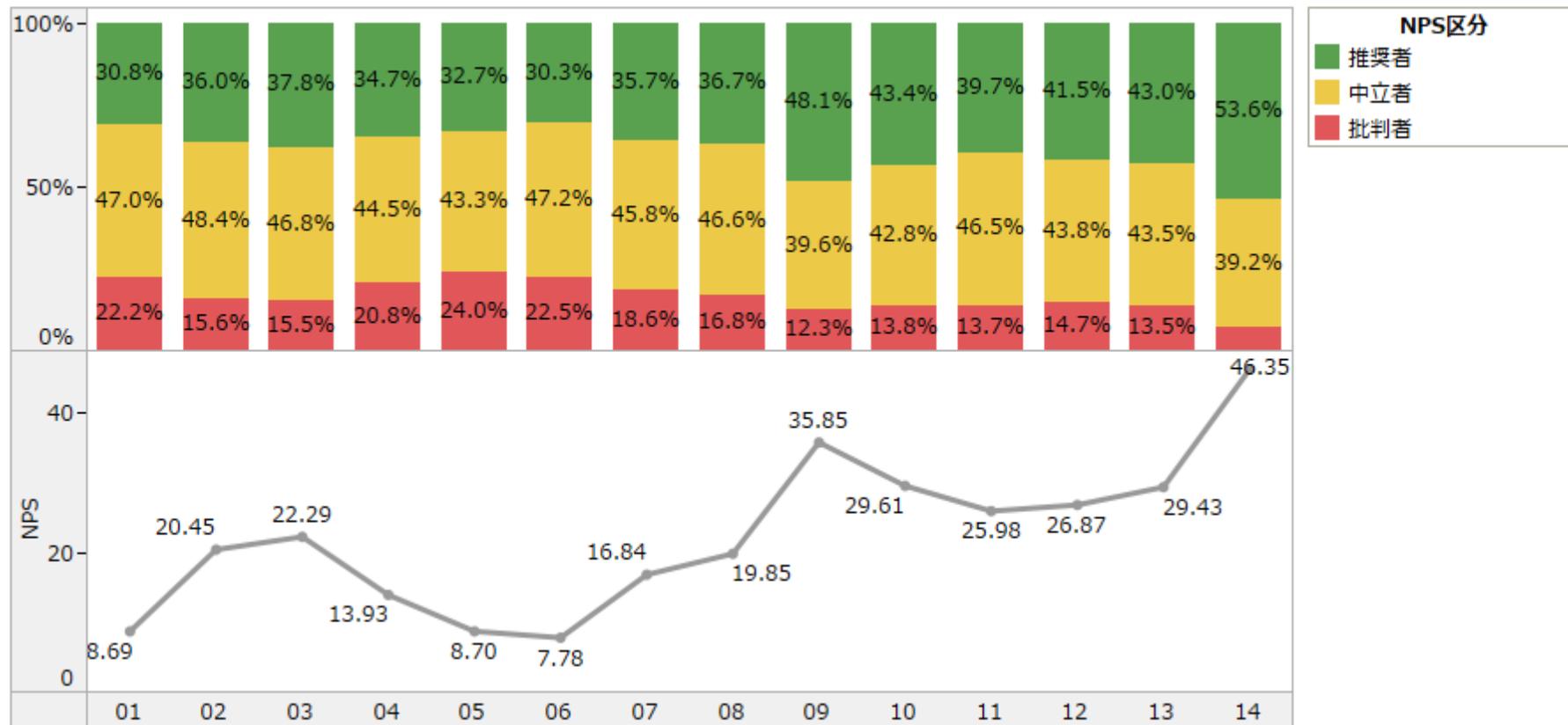


学部ごとにみると、外国学部で「内容が難しかった」のスコアが高い。

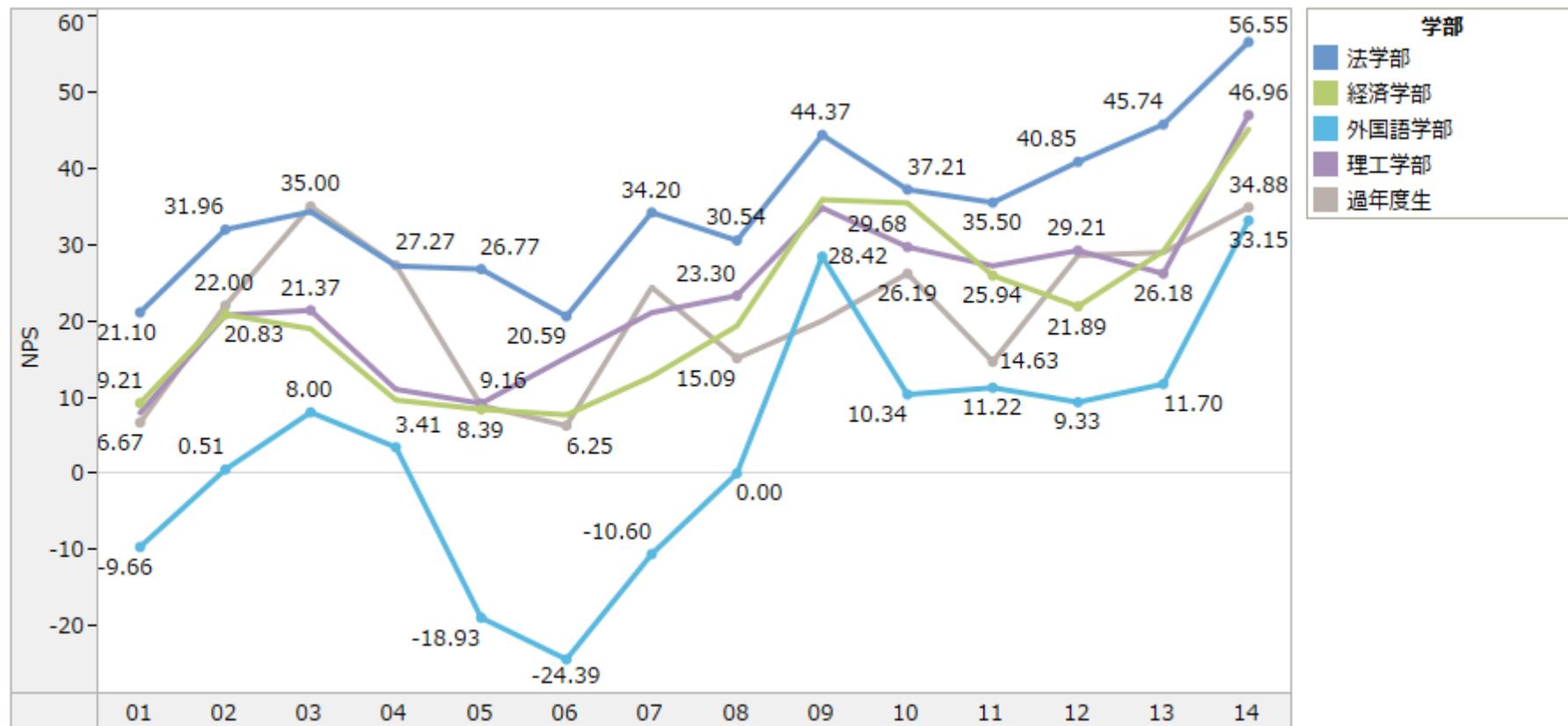


NPSはすべての回を通じてプラス。

初回の+8.7から最終回の46.4に上昇。第9回のNPSも高い。



外国語学部のNPSが一貫して低く、とくに第5回から第8回までの手法の回で低い。



## 推奨度の理由 ChatGPTによるまとめ

### ● 体系的な学びの不足を補うニーズ

- 「データサイエンスを体系的に学んだことがない」という理由が挙げられていることから、受講者はデータサイエンスに関する包括的な学びを求めていることがわかります。これにより、今後のカリキュラム設計において、基礎的かつ体系的な内容を充実させることが求められます。

### ● 知的刺激を感じるコンテンツの提供

- 「知的に刺激される」というフィードバックから、受講者は新しい知識や発見に対する興味を持っており、知的なチャレンジを提供する授業が評価されていることがわかります。これにより、より高度な議論や実例の提供が求められることが示唆されます。

### ● データサイエンスの社会的・公共的応用への関心

- 「公共的に使われるデータについての例を知れた」という理由から、社会や公共に貢献するデータサイエンスの応用に興味を持つ受講者が多いことがわかります。これにより、授業で取り上げる事例は、実社会での具体的な応用や影響を強調する必要があることが示唆されます。

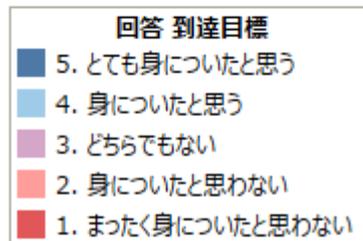
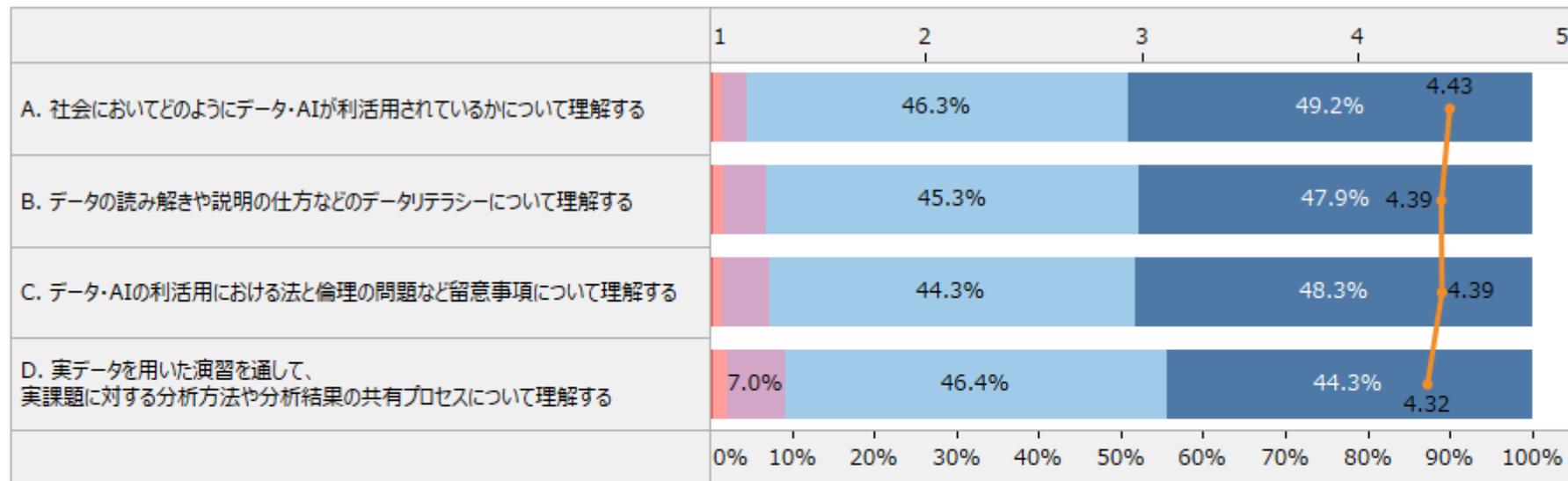
### ● 新しい問題や視点を提供する授業の価値

- 「新しい問題について考えることができる」というフィードバックから、授業が新しい視点や問題意識を生む場となっていることが評価されています。これにより、問題解決型のアプローチやクリティカルシンキングを促進する内容が今後も重要視されることがわかります。

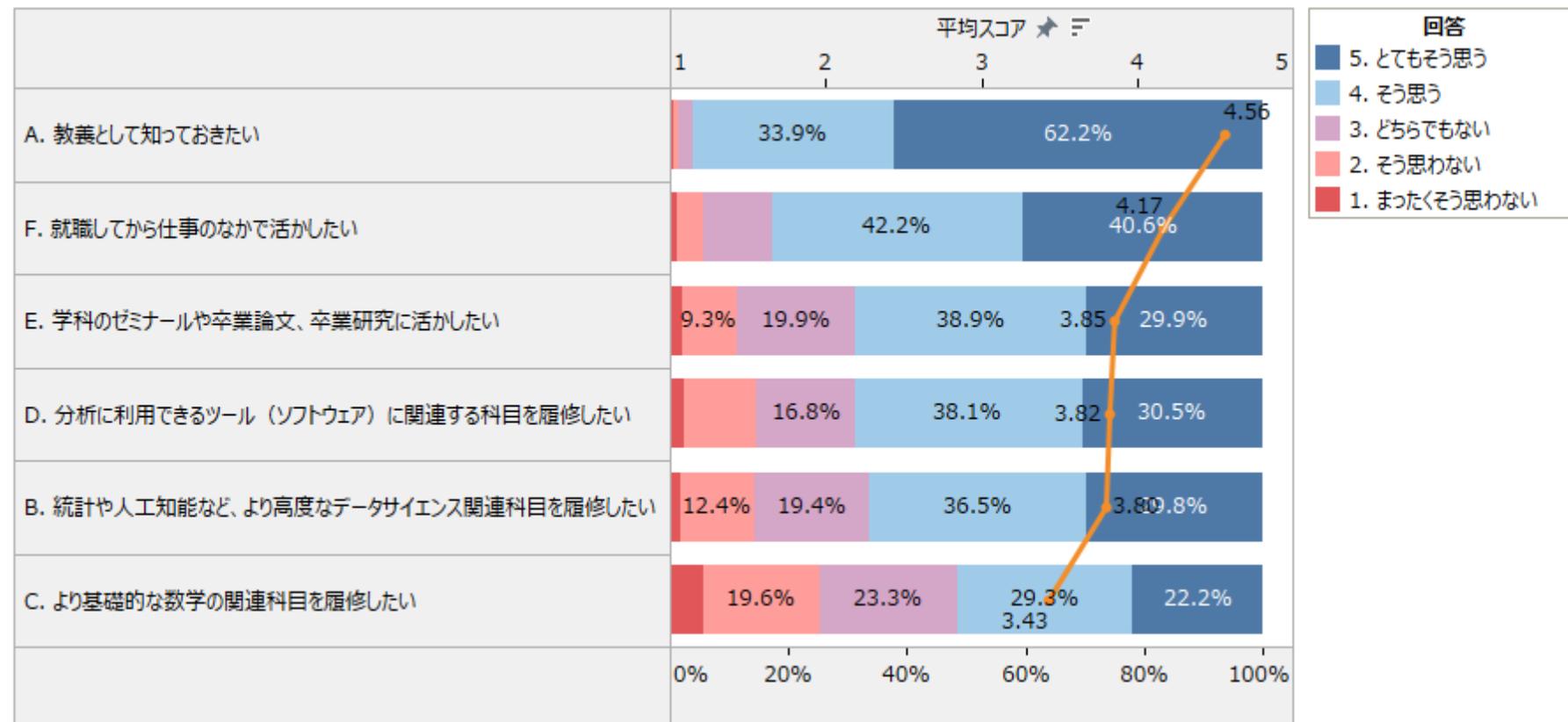
### ● 日常生活におけるデータサイエンスの理解向上

- 「身の周りに溢れるデータサイエンスについて知れる」という理由から、受講者は日常生活に関連するデータサイエンスの活用方法に強い関心を持っていることがわかります。これにより、日常生活に密着した実用的な内容や事例が授業の重要な要素となることが示されています。

## 授業の到達目標の達成感は概ね良好。



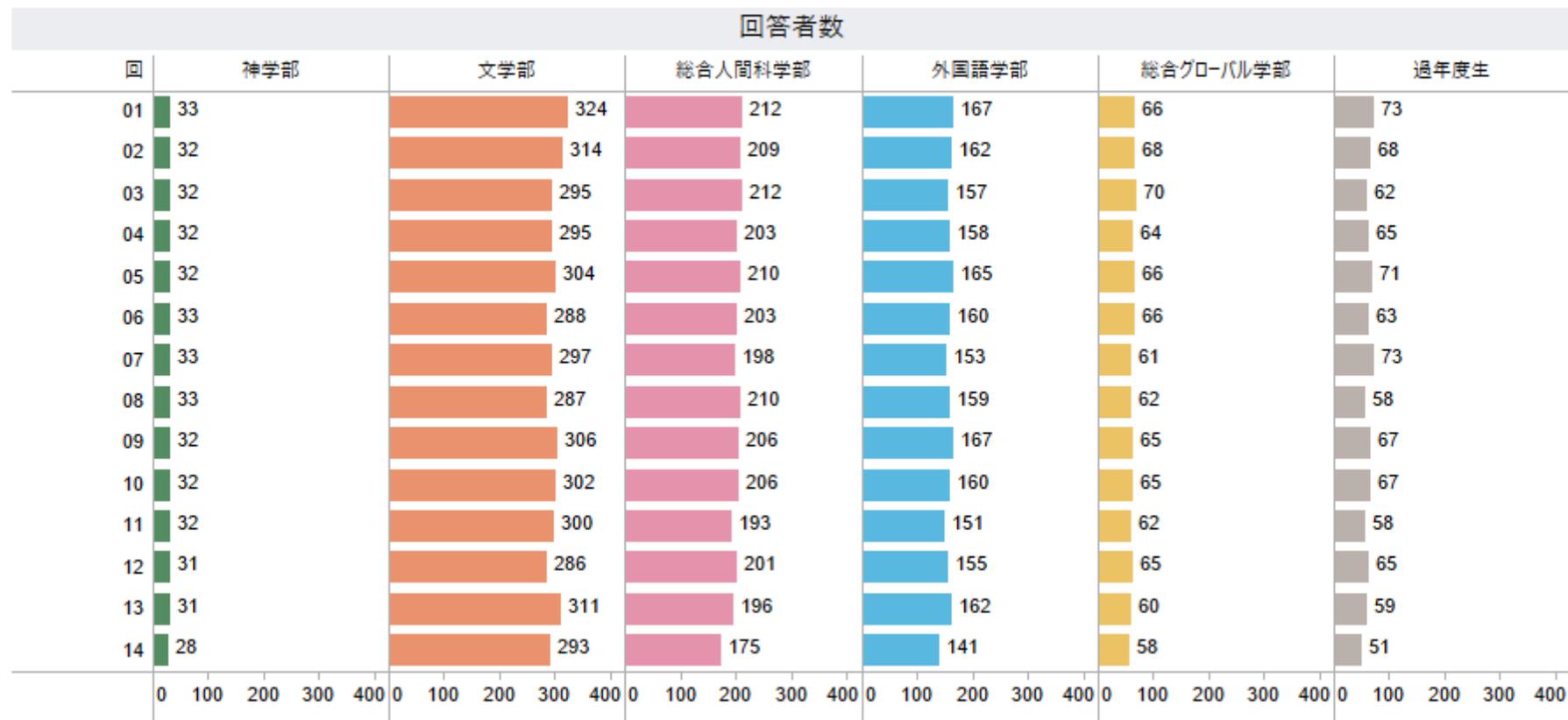
ほとんどの学生が「教養として知っておきたい」「就職してからの仕事の中で活かしたい」。  
上位科目の履修を希望する学生も比較的多い。



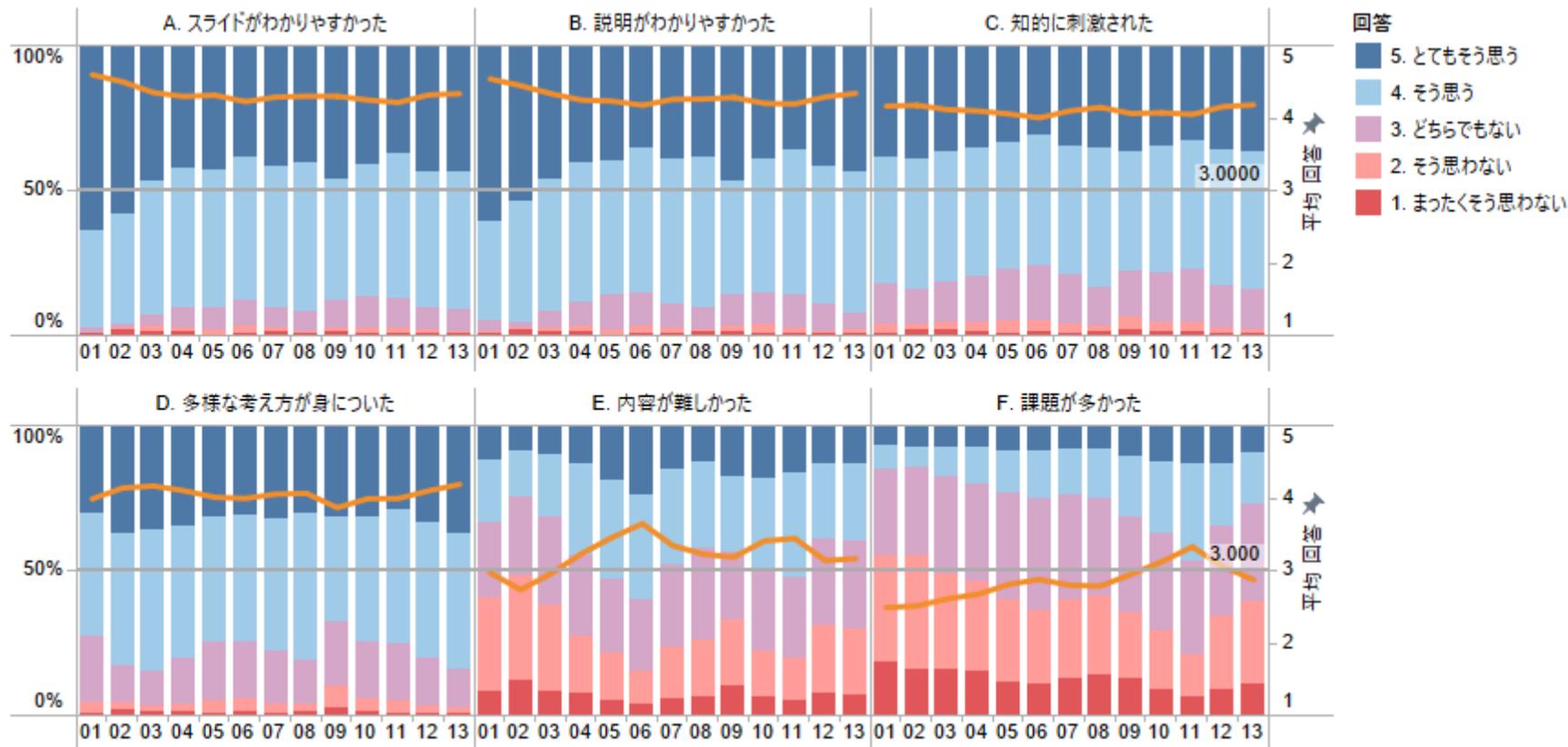
3. 授業アンケート集計結果  
秋学期



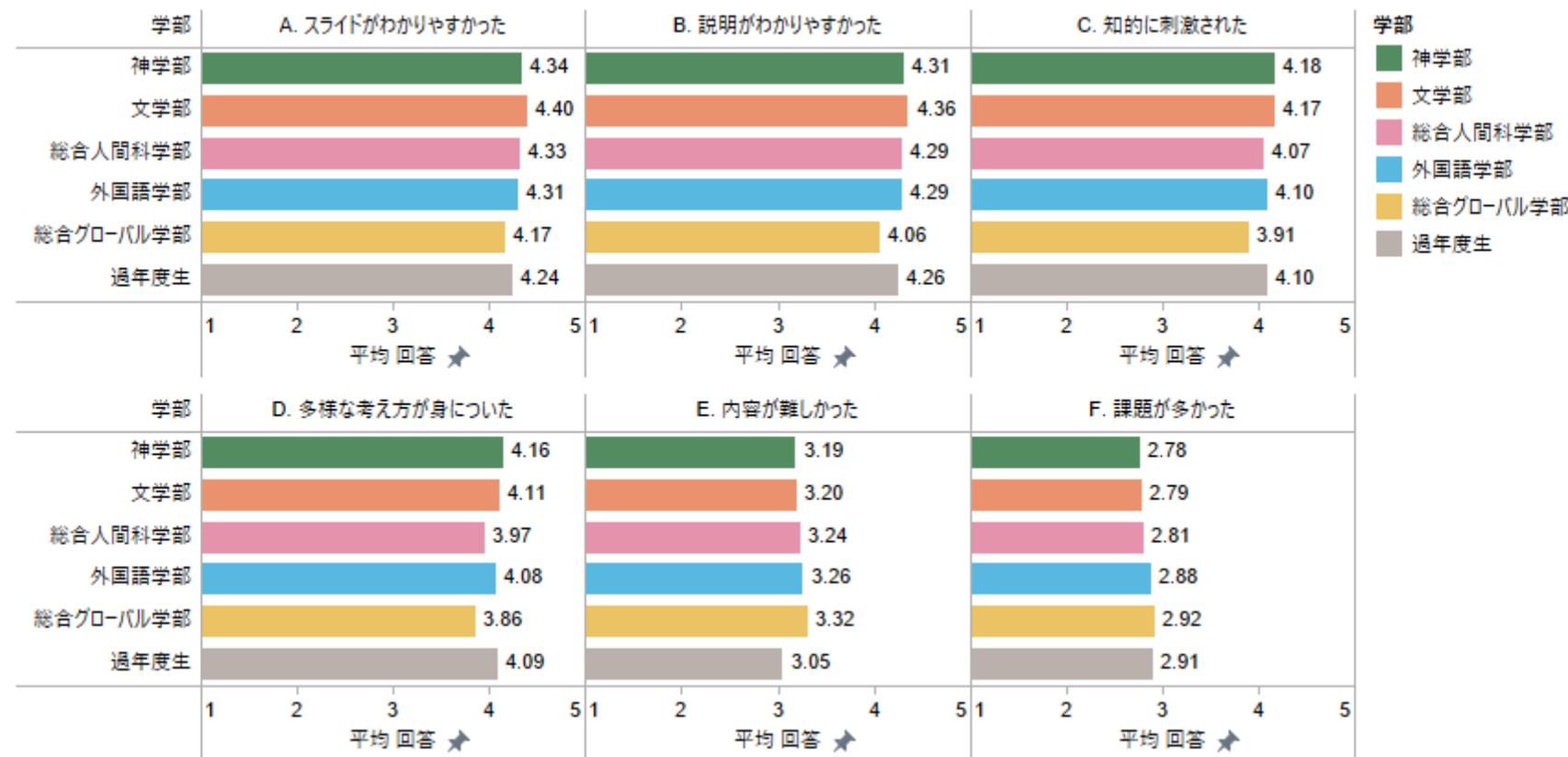
# アンケート回答者数



概ね高評価。第6回で「内容が難しかった」が、第11回で「課題が多かった」が若干多い。

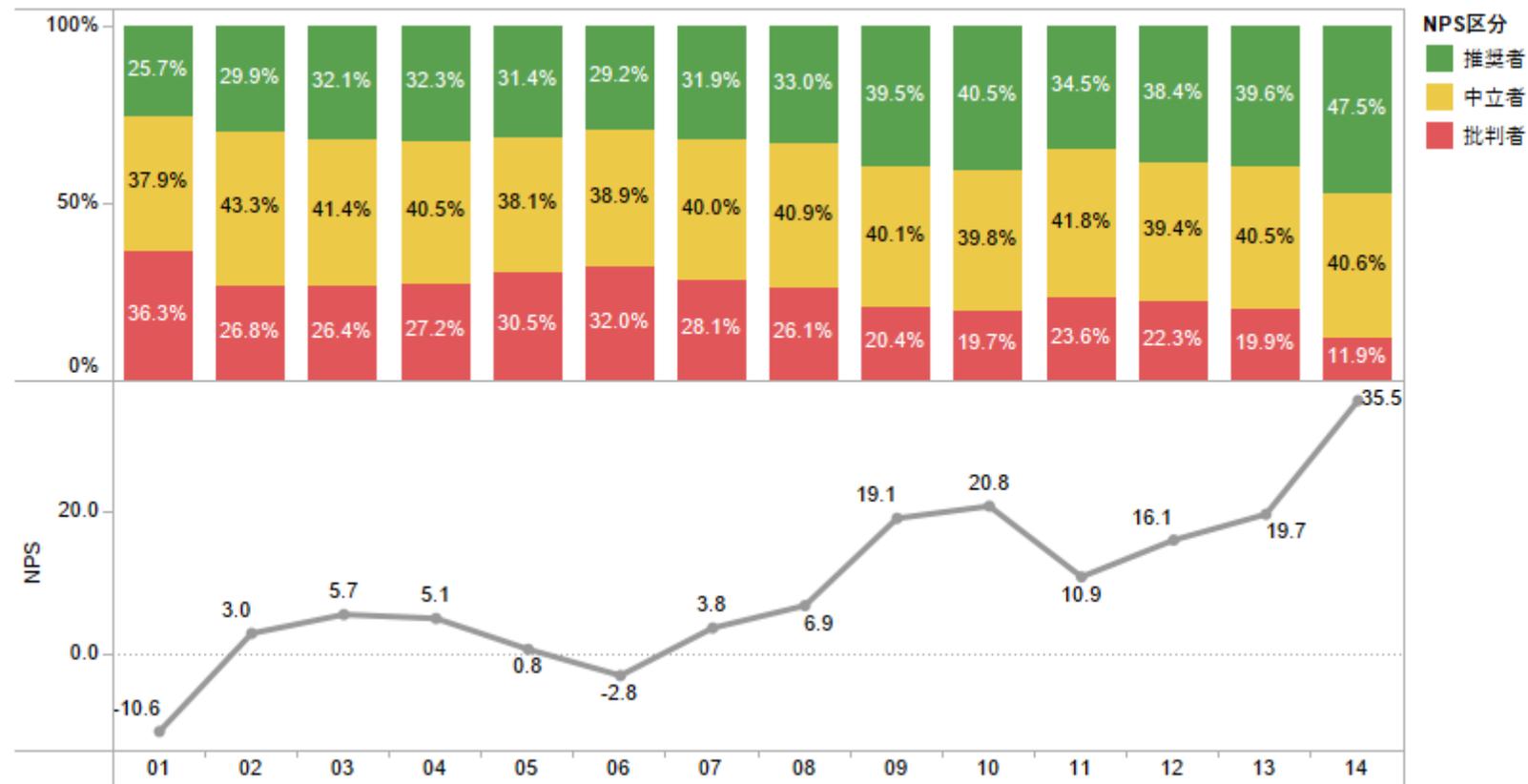


学部による差はそれほど大きくないが、FGSからの評価が全体的に若干低い。

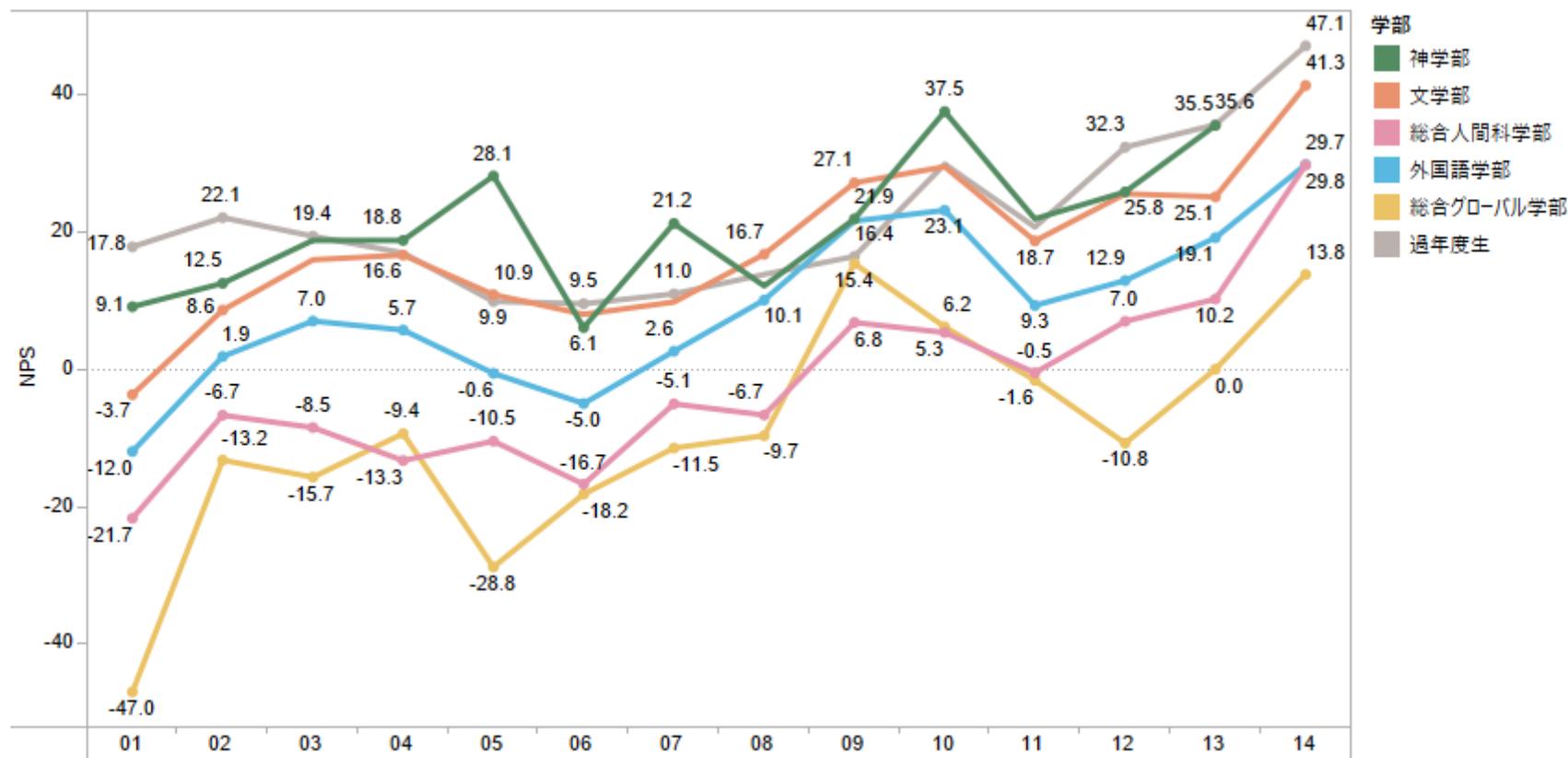


NPSは初回と第6回でマイナス。

初回の-10.6から最終回の35.5に上昇。第9回・第10回のNPSも比較的高い。



## 総合人間科学部とFGSが初回から第8回までの座学がすべてマイナス。



## 【推奨者】推奨度の理由（ChatGPTによるまとめ）

### ● カテゴリ①：内容が将来役立つ・社会的に重要

💬 「データサイエンスについて詳しく知ることができ、将来に活かせると感じた」

💬 「現代の社会において必要な知識だから」

→ この授業で学べる内容が、就職や将来の仕事、社会での実践において有用だと感じている学生が多数。データサイエンスの重要性が伝わっている。

### ● カテゴリ②：授業がわかりやすく楽しい

💬 「グループワークや日常に関係のある話題で楽しく学べた」

💬 「例が身近で、内容がすんなり入ってきた」

→ 授業内容が身近で、アクティビティも工夫されており、楽しく理解できるという声が多い。わかりやすさ・親しみやすさが高評価。

### ● カテゴリ③：教員や進行が良い

💬 「先生の説明が丁寧で、初心者にも分かりやすかった」

💬 「スライドが見やすく、テンポもよかった」

→ 教員の話し方、資料の工夫、進行のスムーズさに対するポジティブな意見。授業運営の質の高さが印象に残っている。

## 【批判者】推奨度の理由（ChatGPTによるまとめ）

### ● カテゴリ①：内容が難しい・理解しづらい

💬 「内容が難しくついていけないか不安になった」

💬 「専門用語が多く、話の流れを理解するのに時間がかかった」

→ データや統計に対する前提知識がない学生にとって、専門性の高い内容が負担になっている様子がうかがえる。

### ● カテゴリ②：必修なのでやむを得ず受講

💬 「必修だから受けているけど、まだ自分に必要かどうかは分からない」

💬 「単位のために受けているだけで、内容にはあまり興味がない」

→ モチベーションが低く、授業に積極的な関心を持っていない学生がいることがわかる。義務感からの受講。

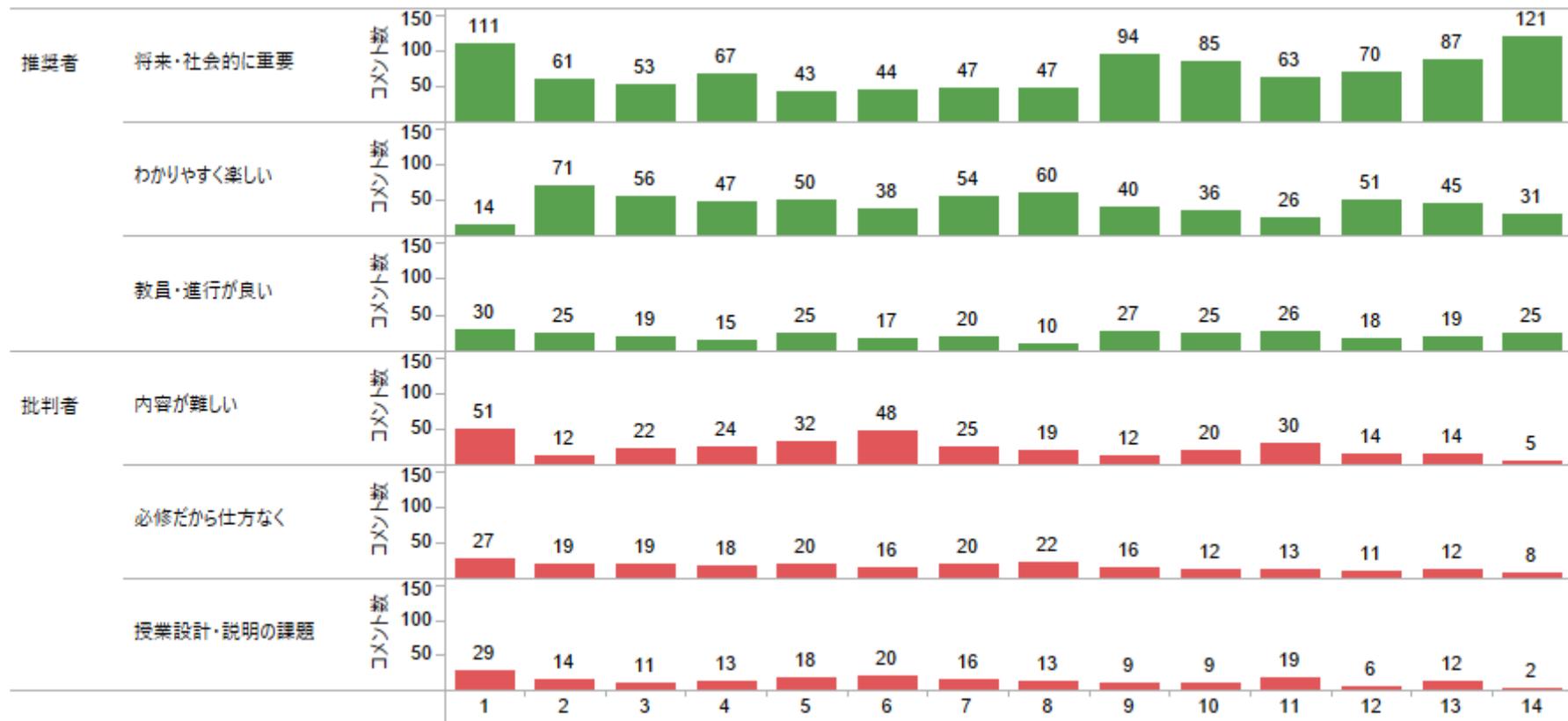
### ● カテゴリ③：授業設計や説明に課題

💬 「説明が抽象的で、具体的なイメージが湧きにくかった」

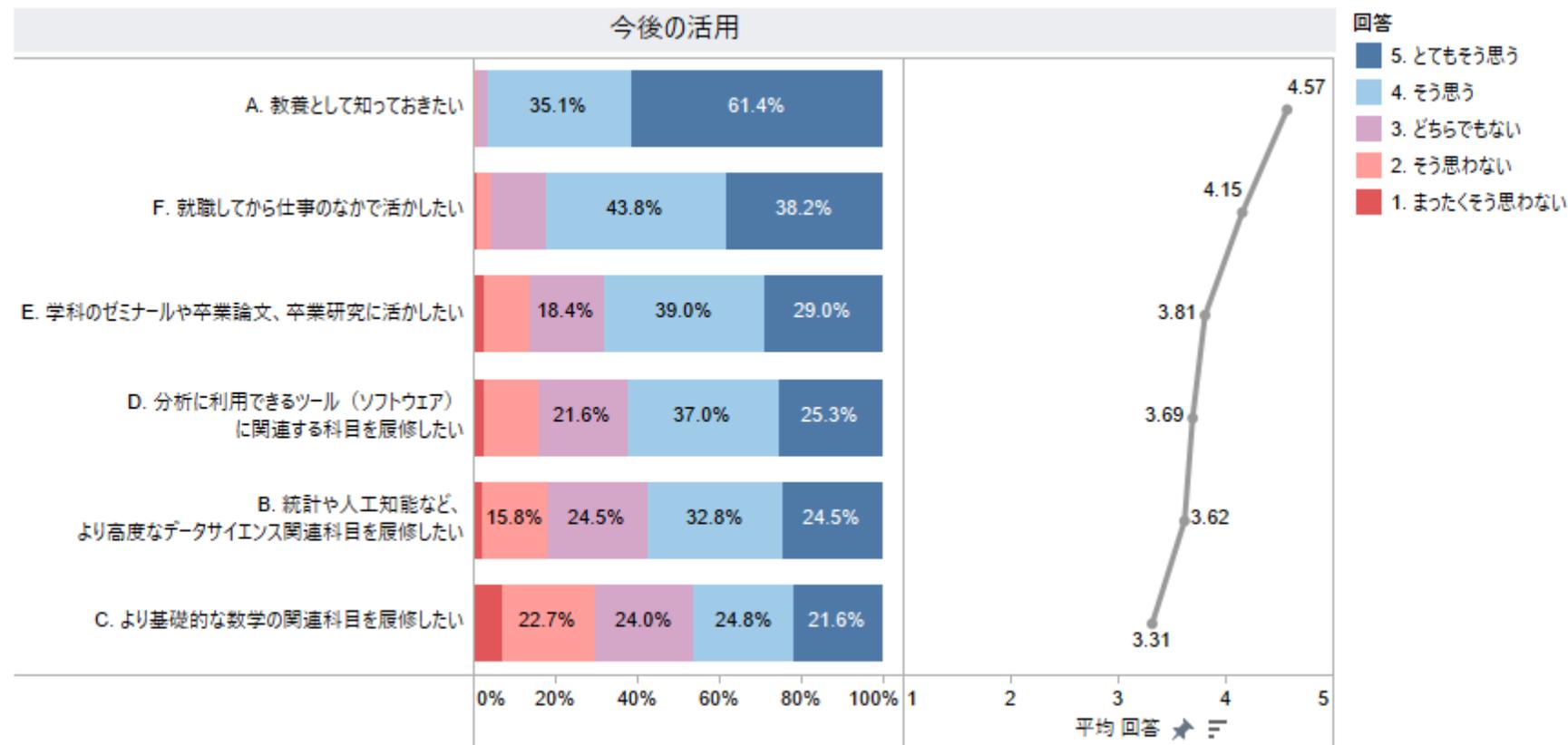
💬 「スライドに情報が多すぎて、要点が分かりづらかった」

→ 講義の進行や資料の構成について、わかりやすさや整理の仕方に改善を求める声がある。

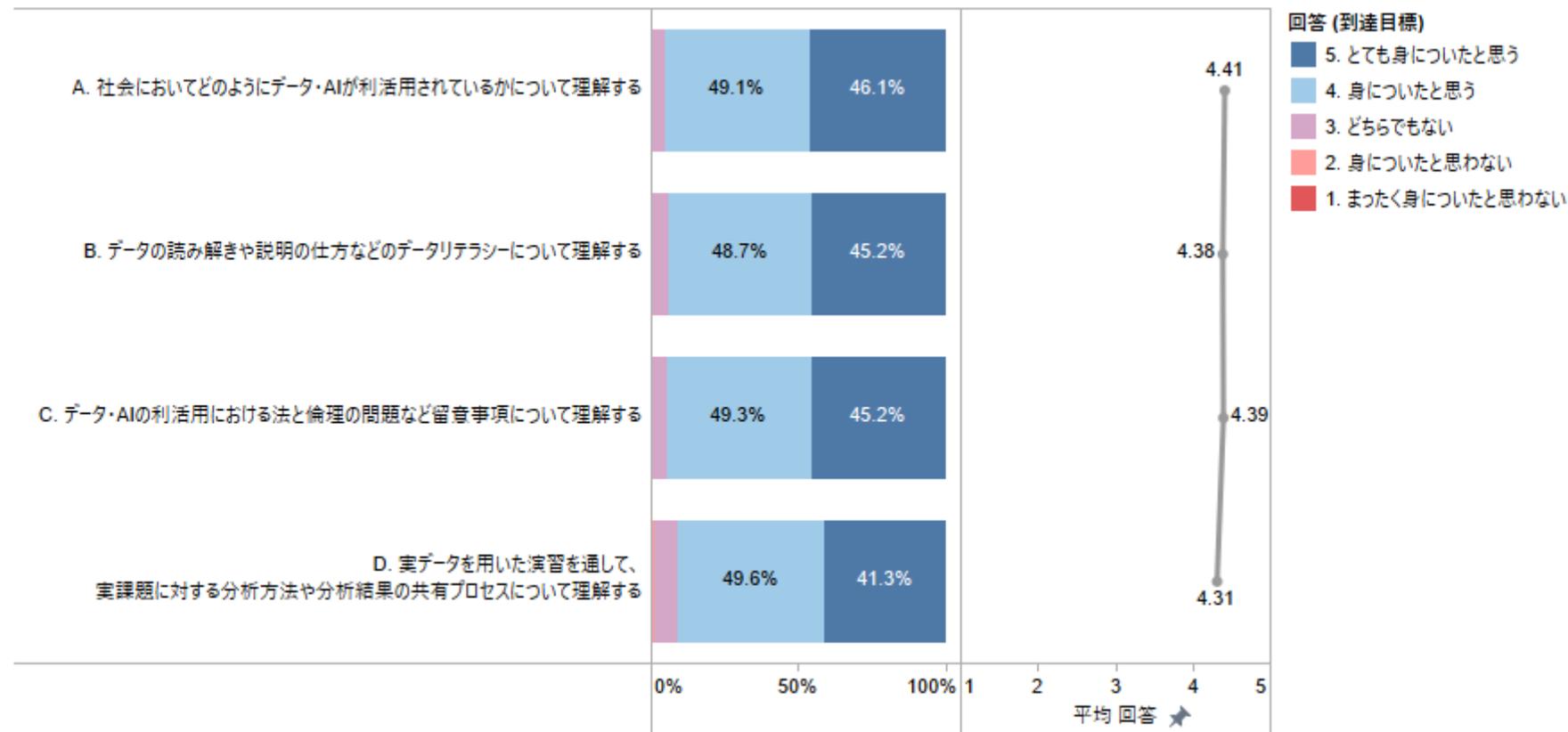
「将来・社会的に重要」という声が多い。  
 「内容が難しい」は回によって異なる（初回と第6回が多い）。



ほとんどの学生が「教養として知っておきたい」と考えている。  
上位科目の履修を希望する学生も半数程度。



## 授業の到達目標の達成感は概ね良好。





上智大学  
SOPHIA UNIVERSITY

FOR OTHERS, WITH OTHERS